

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400146
法人名	株式会社 ウキシロケアセンター
事業所名	いこいの里 宇佐町
所在地	福岡県北九州市小倉北区宇佐町1丁目9-36
自己評価作成日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年11月26日	評価結果確定日	平成24年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員同士、色々と相談出来る環境を作ったり、職員間で、個々に合ったレクリエーションを考えたり入居者様自身の意見を尊重し取り入れた上で色々な体験が出来るように提供できるサービスを考えている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中心市街地にも近く、店舗や市場、住宅が立ち並び中に位置する1ユニットの事業所である。母体法人は有料老人ホームやグループホームを中心とする事業展開を図っており、ノウハウの共有や全体ミーティングを通じて、基本理念や信条、介護の在り方を共有し、実践に結び付けるよう取り組んでいる。「いこいの里宇佐町」では、1ユニットの特性を活かし、入居者の方々の笑顔や喜びにつながる、ふれ合う支援を重要視し、何気ない日常を大切にしたかかわりの中で、その人らしさを大切にされた支援に取り組んでおり、職員のやりがいにもつながっている。開設して3年目を迎え、現在、事業所全体で業務改善に取り組んでおり、家族や地域との関係性を更に深めながら、今後の活動展開も楽しみな事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間のミーティングなどを通し理念の再確認を行ったり、理念を踏まえて施設の問題などを話し合っている	理念や信条、目標等を定め、ミーティング等を通じて再確認を行い、支援の方向性について共有認識を図っている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事などに積極的に参加させて頂き交流を図っている	町内会に加入し、運営推進会議等を通じて、地域行事の案内を頂いている。敬老会行事や地域商店街の利用等にて、地域との交流の機会がある。近隣にある市民センターの利用や連携について、現在、模索している状況である。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの場でホームの問題などをテーマに話し合っている	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の方々を平等に考え、現状を理解してもらった上で話し合い、また職員間で話し合っている	全家族への案内を行い、町内会長や成年後見人の参加を得ている。家族の参加しやすいスケジュール調整が行われ、地域情報の収集や、事業所の現状報告等をもとに、意見交換を行っている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの方や町内会長の方々と交えて運営推進会議などで意見交換を行っている	行政主催の研修に参加したり、法人全体の研修実施時には、行政担当者に協力を仰いだ経緯もある。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間やご家族の方々と話し合い、拘束や虐待などに繋がらない様、努めている	想定されるリスクや弊害について家族にも説明し、身体拘束を行わない方針を共有している。玄関の施錠は行われているが、内側から開放可能となっている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連施設全体で話し合ったり、ホーム職員間のミーティングなどで、虐待をテーマに話し合っている	

福岡県 グループホーム いこいの里 宇佐町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターを利用しており、必要な方は活用し支援を行っている	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、成年後見人の方の運営推進会議への出席も得ている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご不明な点などを細かく丁寧に説明させて頂き、十分御理解された上で契約を行っている		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や普段のコミュニケーションの中で御意見・御要望などを聞き出し、それをテーマに職員間で話し合っている	運営推進会議の開催案内を全家族に行っている。体操や機能活用を充実させて欲しいとの家族の要望もあり、現在、積極的に取り組んでいる。毎月、心身状況や日常の様子について、報告書を作成している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別に意見を聞き、それを職員間で話し合っている	月例のホームミーティング等において職員意見の収集を行い、全体ミーティングにつなげている。現在、施設長を中心として業務改善に積極的に取り組んでいる段階である。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者ミーティングや普段のコミュニケーションの中で、管理者側からの意見・報告を述べる場が有り、意見を反映している		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広く人材も在籍しており、職員個々の要望などを聞く場を設けている	職員の採用にあたり、年齢や性別による排除は行わないようにしている。定年制は設けているが、本人の意欲や状況により、再雇用も可能となっている。資格手当や研修参加へのサポート、休憩時間の確保等に取り組み、自己実現や働きやすさへの支援を行っている。	理念や方針の周知を図り、全体ミーティング等にて共有を図る等、職員教育に努めている。現状として、内外の研修実績が少なく、参加者も限定されている。職員の積極的な関わりも含め、支援の背景となる知識や意識を高め、更なる質の向上につなげていく取り組みに期待します。
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングなど、職員間で話し合っている	法人全体として外部講師を招き、家族等にも参加を募りながら、認知症についての研修を実施している。また、理念や方針、職員心得等の周知を図り、入居者の尊厳や権利について意識を高めている。	

福岡県 グループホーム いこいの里 宇佐町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修などを利用し参加している		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外の研修などを利用したり、社外から専門家を招いて講演会などを催している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に話をする機会を設けて本人の現状の思いを聞いている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月、お手紙を通して利用者様の方々の様子などを伝えたり、様子の変化や来所時・電話などでコミュニケーションを図っている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族へサービスの説明を行い、納得された上で、サービスの提供を行っている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を尊重し、過剰な介助は避けている		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などがある際、参加を募ったり、毎月のお手紙や来所時、電話などで近況の報告や普段の様子などを話している		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・御家族などへお手紙やお電話出来る環境を作っている	家族への行事案内を積極的に行い、関係性を大切にしている。電話や年賀状のやりとりが出来るよう支援している。	

福岡県 グループホーム いこいの里 宇佐町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が間に入り、利用者の方々同士のコミュニケーションが円滑に運ぶ様、努めている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談など出来る様、努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に話をする時間を設けたり、困難な場合は本人の負担にならない様、御家族や職員間で話し合っている	日常の何気ない会話や行動から、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族からの情報も収集しながら、職員間での検討を行っている。	職員それぞれが持つ、入居者のこれまでの暮らしやライフスタイル等に関する情報を共有し、積み重ねていくためにも、アセスメント様式の工夫や充実が望まれます。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族・御本人より過去の情報などを聞き、以前の生活環境に近い形をつくる様、努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の方々とおまめにコミュニケーションを図り変化に気づける様努め、職員間で様子などの情報を共有している		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族や病院関係者と相談し本人に合ったケアを考え、無理の無い様介護計画を作成している	本人、家族の参加する担当者会議を開催し、思いや意見を聴きながら、介護計画へ反映させるようにしている。カンファレンスや定期的なモニタリングを通じて、現状の確認や見直しの検討を行っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間でカンファレンスを行い定期的に見直しを行っている		

福岡県 グループホーム いこいの里 宇佐町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や御家族の要望を常に考え、それに沿ったサービスを職員間で話し合い提供できる様努めている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自由に生活して頂き、職員で体調などを管理した上で楽しく過ごして頂いている		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は御本人や御家族の了解の上、受診先を決めている	入居時に医療機関についての確認を行い、家族の協力も得ながら、これまでのかかりつけ医への受診を行っている。また、協力医による定期往診体制も整備されている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化などが有った場合、看護師と連携が取れる様な環境が出来ている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院関係者や御家族とコミュニケーションを図り状態などカンファレンスを行い早期に退院できる様努めている		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族と相談・話し合いの上・本人の一番良い状態を考え支援を行っている	重度化や終末期のあり方について、家族や医師との話し合いを重ねながら、法人内の連携も含めた対応方針について、共有を図っている。今後、運営推進会議の議題として取り上げ、意向確認や方針の共有をさらにすすめていく予定としている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回、避難訓練を行い、その際救急隊の緊急時のレクチャーやミーティングなどで職員間の訓練・勉強を行っている		

福岡県 グループホーム いこいの里 宇佐町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、入居者様を交えて避難訓練を行い、都合の合うときは消防・救急隊を交えて訓練を行っている	年2回、消防署の協力により夜間を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議の中で課題検討も行われ、町内会長より避難場所についての情報提供も行われている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が個人の人格を尊重し、言葉づかいに気を付けて対応している	法人として詳細に示された職員心得には、人格の尊重やプライバシーの確保に向けた視点が重要視されており、職員への周知を図っている。排泄ケアの際には特に留意し、さりげない対応を心がけている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に意見を聞く場を設けている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々の意見を取り入れ、希望に添える様、努力している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣介助の際、本人に着る服を選んで頂いたり、鏡の前で整容して頂いている		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方々に食事の支度のお手伝いをお願いしたり、食べたい物を取り入れ提供している	調理担当職員が配置され、嗜好や栄養バランスに配慮された献立が作成されている。個別の希望や状況により、買い物への同行や調理準備、後片付け等に力を発揮してもらっている。時には、回転寿司や弁当を持って外出する等の楽しみもある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を記録に残し、状況把握や摂取管理が出来る様にしている		

福岡県 グループホーム いこいの里 宇佐町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの問題を職員間で話し合ったり、訪問歯科の先生と口腔ケアについて意見を交換している		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせて定期的にトイレ誘導を行っている	排泄チェック表により、個別のパターンや間隔の把握に努め、さりげない対応を心がけている。便秘改善への取り組みは、法人内での発表が行われる予定となっている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れたり、希望者は個々にヤクルトを提供している		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の方々と話し合い、入浴の順番などを平等に行う為、毎回順々に順番を変えている	入浴の順番は、その都度、皆で話し合い決めている。時には、北九州空港まで出かけ、足湯を楽しむこともある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に臥床して頂き、入眠時は様子確認を行ったり居室の空調を合わせたりしながら巡視を行っている		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時は様子観察を強化し、薬の効果・副作用をしっかり把握し努めている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションなど個々の嗜好に合ったものを考え職員は盛り上げ役や補助へ徹している		

福岡県 グループホーム いこいの里 宇佐町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>極力散歩などに職員同伴で行ったり、本人の行きたい場所も職員間で話し合いなるべく叶う様、努めている</p>	<p>希望や天候にあわせて、近所の公園や商店街への買い物に出掛けている。季節の花見やドライブ、花火大会の見学等に出かけている。法人全体で参加を募り、毎年、旅行が企画されている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買物に同伴したり、買物代行を行っている</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の要望があれば電話やお手紙を書いて頂いている</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に合った料理の提供やレクリエーションを考えたり季節の花を置き季節を感じて頂ける様な提供をしている</p>	<p>食堂・リビングを囲むように、各居室が配置されている。作成の過程も楽しみながら、季節の飾り付けや陶芸作品が飾られている。対面式のキッチンからは、調理の際の音や匂いを直接感じる事が出来る。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファを置いたり、自由に生活出来る様になっている</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様やご家族と話し合い、御本人の今までの生活環境と変わらない様、居室内の物を持ち込んで頂いている</p>	<p>箆笥や椅子が持ち込まれ、絵や書道作品が飾られている。また、家具の配置にも、安全面の工夫が行われている。暮らしの場としての生活感ある居室となっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>過剰な介助は行わず、本人に合った生活リズムやレクリエーションを職員間で話し合い提供している</p>		